校長室の窓

同じ空の下に（1 学期終業式）

今年もまた、夏休みが来ます。
ここで、皆さんに一つの俳句を紹介します。その場面を思い浮かべてみてください。

地下壕に紙飛行機や子らの春

そこは日の差さない地下シェルター。爆撃音が響くような場所に、静かに紙飛行機が飛ぶ。春を求める子供がいるーウクライナからの一句です。**（ウクライナ、地下壕から届いた俳句）**

昨年、この終業式に話したことを 2，3 年生は覚えていますか。
　それは、私のかつての教え子、ペルーの内戦を経験した女子高校生の話でした。その生徒は夏空を見て、じめっとしているけど日本の空のほうがペルーの澄んだ空より好きだ、なぜなら爆弾を落とさないでくれるからと話してくれました。そう、だから、必ず明日の朝も生きていると確信して、夜眠れる幸せが日本にはある、といったことでした。夏空を見るたび思い出します。
　昨年、この話をしたとき起きていた戦争や紛争が一つでもなくなっていてほしいと心から願いましたが、私たちと同じ空の下で、今、皆さんと同じ年頃の人が明日が来ないかもとおびえて生きる状況が続いています。私たちはたまたま、こんにちの日本にいるから隣の友達も自分も明日を信じて生活できるのです。

　私たちは、なぜ学ぶのでしょう。多くの理由があると思いますが、「人が人として幸せになるため」という理由もその一つだと思います。「幸せ」は人それぞれ違うものですが、その一方で私たちは一人では生きていけません。だから、私たちは「人の不幸」ではなく、「お互いの幸せ」によって生きていきたいと思う、「人として幸せに生きる」は、「お互いの幸せによって生きること」だと思います。そして思うだけではなく行動を伴えば意味が生まれます。

　もしあなたが悩みに押しつぶされそうならば、相談してください。またはそうした友人がいたならば、その友人が感情から少し離れて自分自身を見られるよう手伝ってあげてください。またはあなたが先生に相談してください。

　最後に三つにまとめます。
一つめ。今日、今、この瞬間、生きていることの重みを感じてほしい
二つめ。どのような人も、必要な人です。不要な人なんていません。不要な人なんていません。そのことを皆さんの心で、ぜひ感じてキープしてほしいのです。
三つめ。皆さんの心が弱ってしまったら、必ず誰かにつたえてください。また、そのような人がいたら声をかけてください。感情で弱まったものには表現する手段が必要です。

皆さんがこの後、人生でいくつもの熱い夏を越えて確かに成長していくことを心から祈っています。